

学校経営方針と学校教育目標

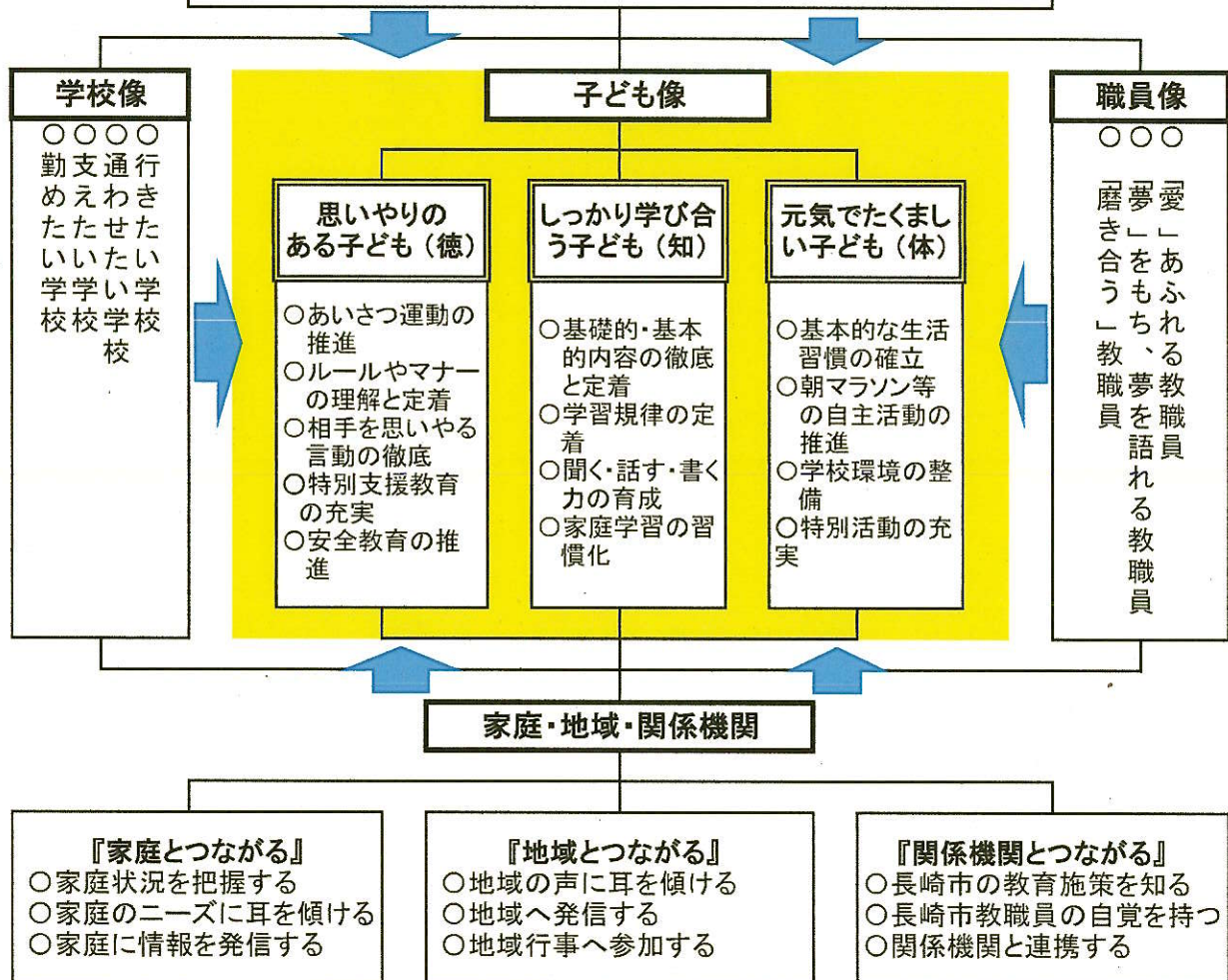
【グランドデザイン】

学校経営方針

- 長崎市の第五次総合計画・教育方針及び本校の児童の実態を踏まえて、確かな学力、豊かな人間性、健康と体力の3要素からなる、児童の「生きる力」を育むことをめざす。とりわけ、「真善美を感じ、それを追求しようとする豊かな心」と「確かな学力をもち、自らを律し、他と協調して主体的に生きようとするたくましさ」を身に付けた児童の育成を本校教育の中核に据える。
- 保健・安全、施設や設備の管理、迅速で正確な事務処理等、また家庭や地域の教育力を取り込んだ総合的な学校力の向上をめざす。

学校教育目標

豊かな心を育み、主体的に学ぶたくましい茂木っ子の育成
～気づき、考え、実行する 茂木っ子をめざして～



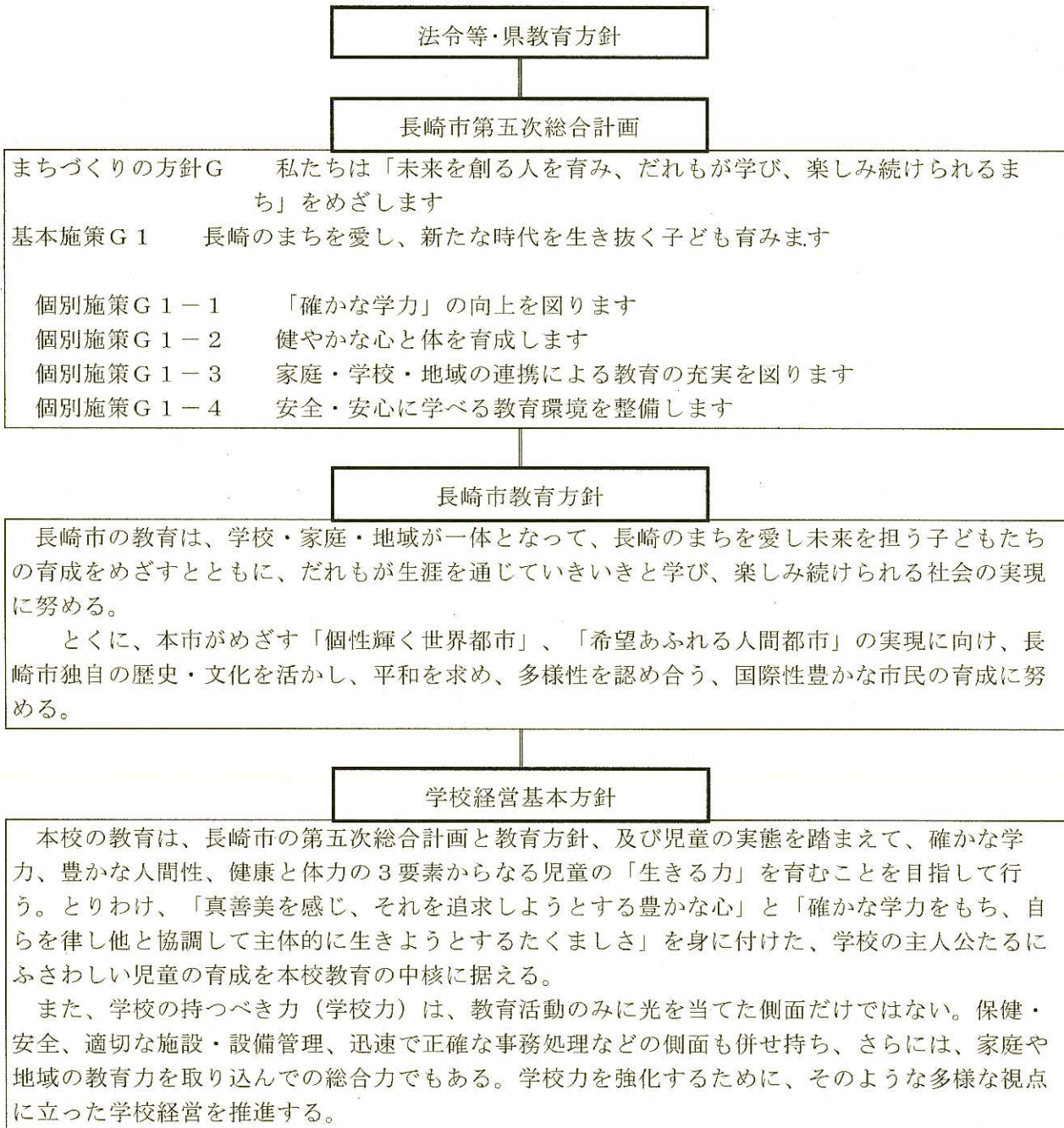
『チーム茂木「つながる」』

～ 職員同士・子どもと・家庭と・地域と・関係機関と～

令和5年度 学校経営方針と学校教育目標

(1) 学校経営基本方針

令和5年4月1日
長崎市立茂木小学校
校長 北村 和則

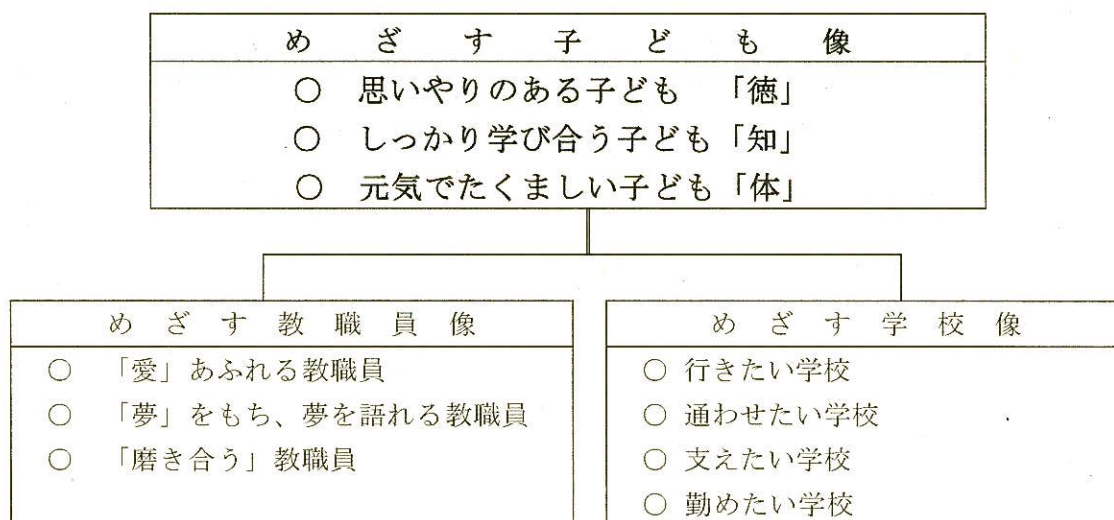


学校経営の基本理念

- 学校は、「子どもがよりよい自立に向かって『生きる力』を身に付ける場」である。
- すべての教育活動は、めざす子ども像、教育目標の実現のためにある。

(2) 学校教育目標

豊かな心を育み、主体的に学ぶたくましい茂木っ子の育成
～気づき、考え、実行する 茂木っ子をめざして～



(3) 重点努力目標

「豊かな心を育み」

- ◎ふるさと「茂木」を愛し、思いやりがあり、仲良く助け合う礼儀正しい子どもの育成
→※個別施策G1-2 健やかな心と体の育成
※個別施策G1-4 安全・安心に学べる教育環境の整備

「主体的に学ぶ」

- ◎人の話をよく聞き、自分でしっかり考え、工夫する子どもの育成
→※個別施策G1-1 「確かな学力」の向上
※個別施策G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実

「たくましい」

- ◎明るく健康的で、粘り強く最後までやりぬく子どもの育成
→※個別施策G1-2 健やかな心と体の育成
※個別施策G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実

(4) 学校教育目標・重点努力目標の具現化に向けて

◇ 本校の児童の実態

児童の長所	児童の短所
○ あいさつができる ○ 優しく、明るく、仲が良い ○ 言われたことはきちんとする ○ 外でよく遊ぶ、元気	○ きまりや礼儀に係る意識が未成熟 ○ 基礎学力が身に付いていない ○ 自分の考えや思いを表現できない ○ あきらめが早い（粘り強さに欠ける）



◇ 学校がめざす姿

「行きたい学校、通わせたい学校、支えたい学校、勤めたい学校」

- 「行きたい学校」… 安心して学ぶ心が育つ学校「今日も楽しかった。明日も楽しみ」
- 「通わせたい学校」… 安全安心で、子どもの心と頭と身体を育てくれる学校
- 「支えたい学校」… 地域とのつながりを大切にする信頼できる学校
- 「勤めたい学校」… 磨き合い、高め合い、支え合う、やりがいがある学校



◇ 教職員がめざす姿

「あゆみ続ける教職員」

- 「愛」あふれる教職員…児童理解に努め、適時適切な指導や承認・称賛で子どもの自己肯定感を育む使命感をもった教職員集団
- 「夢」をもち、夢を語れる教職員…子どもが夢や憧れ、志をもち、その姿を見た家庭・地域や教職員が互いに信頼し合い、協働する教職員集団
- 「磨き合う」教職員…意見を述べ合い、チームとして磨き合って、専門性を高め、実践で示す教職員集団



総合的な学校力の向上のために

「子どもとつながる」

- 子ども理解に努める
- 子どもの声に耳を傾ける
- 子どもにしっかり語りかける

「家庭とつながる」

- 家庭状況を把握する
- 家庭のニーズに耳を傾ける
- 家庭に情報を発信する

『 チーム茂木 「つながる」 』



※個別施策 G 1-3

「職員同士つながる」

- 情報の共有化（報告・連絡・相談の徹底）
- 共通理解・共通実践（そろえる・違える）
- 一人任せにせず、チームとして対応する、体制づくり
一人のために「よってたかって」～

「地域とつながる」

- 地域の声に耳を傾ける
- 地域へ発信する
- 地域行事へ参加する
- 幼・保・小・中ともに連携する

「関係機関とつながる」

- 長崎市の教育施策を知る
- 長崎市教職員であると自覚する
- 関係機関と連携する
- 市教委・関係機関を活用する

【安心・安全】「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校

今年度スローガン

学力向上と働き方改革

(5) 重点努力事項

「思いやりのある子」(＝「豊かな心を育み」)

ふるさと「茂木」を愛し、思いやりがあり、仲良く助け合う礼儀正しい子どもを育てるために →※個別施策G 1－2 健やかな心と体の育成

※個別施策G 1－4 安全・安心に学べる教育環境の整備

◎あいさつ運動の推進

- ・いつでも、どこでも、誰にでも自分から笑顔でさわやかなあいさつをする。
- ・ワンストップあいさつの励行。

◎ルールやマナーを身に付けさせ、よさを認め、個性に高める。

- ・ルールやマナーをきちんと理解させ、教えることで、定着させる。

⇒廊下歩行、はきものそろえ

- ・よさを認め合う場を設け、継続し、確認する事で、定着させる。

◎相手を思いやる言動の指導の徹底

- ・時と場、相手に応じた正しい言葉遣いと振る舞いを日常化する。

⇒ふわふわことば、〇〇さん(さん付け)

- ・相手の立場に立って考え、いじめを許さない風土の醸成をする。

○けじめのある生活の習慣化

- ・「はい」という返事をはじめ、反応できる力を育成する。
- ・時間を守る。(1分前着席の徹底)

◎読書活動の充実

- ・読書活動の時間の確保と内容の充実(学年にあった内容の本)を図る。
- ・家庭での読書(親子読書)を推進する。

○道徳教育の充実

- ・特別の教科「道徳」の時間の充実を図る(「道徳ノート」で記録を残す)。
- ・すべての教育活動において、道徳教育を推進する。

◎特別支援教育の充実

- ・校内支援委員会を通して、児童理解を深める。→「よってたかつて」のために。
- ・交流学習を推進する。
- ・すべての学級で「ユニバーサルデザイン」化を推進する(「もぎの木タイム」、もぎトーク、「よくわかる茂木小」)。

○防災・安全指導の徹底

- ・廊下や道路の正しい歩き方、自転車の正しい乗り方(ヘルメット含)の定着を図る。
- ・集団下校の指導を徹底する。
- ・施設設備の安全点検と早めの対応に心がける。
- ・「防災教育プログラム」を活用した防災教育に取り組む。

「しっかり学び合う子」(＝「主体的に学ぶ」)

人の話をよく聞き、自分でしっかり考え、工夫する子どもを育てるために

→※個別施策G 1－1 「確かな学力」の向上(「あじさいスタンダード」の活用)

※個別施策G 1－3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実

◎基礎的・基本的内容の徹底と確かな学力の定着

- ・目標を明確にもち、目標達成の姿をイメージして指導する。
- ・既習内容をどのように活用すれば、課題が解決できるかを意識させる。

○少人数指導の推進・充実

- ・算数科を中心に、少人数指導を実施し、学力の定着・向上を図る。
- ・習熟差や個に応じた指導を推進する。

○ICT機器の活用

- ・情報活用能力の向上を図る。(GIGAスクール構想、プログラミング教育の推進)

◎学習規律の定着と学び方の習得

- ・授業に集中して取り組ませる。
- ・全校で共通化した学習規律を定着させる。

「茂木っ子 学習のスタンダード」「よくわかる茂木小」の活用・定着

◎国語力＝言葉を駆使する力の向上

- ・読解力と表現力を伸ばすための授業改善を図る。(校内研究の充実と推進、RSの意識化)
- ・語彙力を鍛える。
- ・静かに、話し手を見て、うなずきながら聞かせる。
- ・基本的な話型を指導し、句点をつけた話をさせる。(ダラダラ話をしない)
- ・「書く」活動の位置づけ(字数を制限、使う語句を指定して書かせる。)
- ・朝の会でのスピーチを設定し、話す機会と聞く機会を多く設け対話力を育成する。
- ・音楽集会、児童集会等において、有効活用を図る。(高学年は覚えて発表する)

◎家庭学習の習慣化

- ・「家庭学習の手引き」「よくわかる茂木小」の充実・活用を図る。
- ・家庭での学習時間を確保させる。(宿題＋自主学習)
- ・家庭での学習内容が定着しているかの評価・指導を確実に行う。

「元気でたくましい子」(＝「たくましい」)

明るく健康的で、我慢強く最後までやりぬく子どもを育てるために

→※個別施策G1-2 健やかな心と体の育成

※個別施策G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実

◎基本的生活習慣の確立

- ・「あはは運動」の推進を図る(生活リズムを定着させる)。
- ・家庭と連携し、基本的生活習慣の確立を図る。
(※「学校保健委員会」で、生活リズムの習慣化を図る取組を推進する)
- ・メディアとのかかわり方をしっかりととらえる(時間やルール)。

◎特別活動の充実(主体性を発揮する場の保証)と年間を通した様々な自主的な活動の推進

- ・児童会で決める今年のテーマの具体化を図り、実践する。
- ・年間を通して、朝マラソン(朝なわ跳び)で体と心を鍛え、身体を目覚めさせる。
- ・委員会やVS活動・係活動等、気づいたことに、自主的に工夫して取り組む。
- ・青少年赤十字(JRC)の活動を生かす。

○子どもと教師との共働による学校環境の整備

- ・勤労意欲を高め、清掃活動指導の徹底を図る。
- ・静かに黙々と様々な活動(授業・そうじ・集会等)に取り組む。(黙動)

徹底継続で習慣化を図り、生きて働く力を育む

学校経営にあたって

<安心して学ぶ心が育つ学校>

- ・みんなが「今日も楽しかった。明日も学校が楽しみ」と思える学校
- ・（児童）相手の立場に立って考え、いじめを許さない風土の醸成（みんなが）
- ・（教職員）相手の立場に立って考え、ハラスメントを許さない風土の醸成（みんなが）
- ・一人任せにせず、チームとして対応する、体制づくり
- ・互いに信頼し合い、何でも言い合える風通しのよい職員室

<研究と実践の両輪>

- ・「児童の夢・希望」「保護者や地域の要望」に応える教育活動
- ・日々の教育活動の充実した実践と、その裏付けとなる研究の推進

<仕事に誇りと喜びをもつ>

- ・長崎市の宝である子どもたちを育てることを担っている誇りと責任の自覚
- ・自らの人間性と教師としての指導力・資質の向上をめざす。

○ 教育の視点

- ・一人一人の子どもはかけがえのない存在
- ・学校は子どものために存在する。
- ・教育における最大の課題は「生きる力（確かな学力、豊かな心、健康・体力）」の育成
- ・教師は子どもにとって、最大の人的環境

○ 「あゆみ」続ける教職員に

- ・㊦ 「愛」あふれる教職員でありたい。
- ・㊦ 「夢」をもち、夢を語れる教職員でありたい。
- ・㊦ 「磨き合う」教職員でありたい。

○ 本気の働き方改革を（働きやすく居場所があり、効率的に）

- ・わかる授業づくりで、学びに喜びをもつ子ども、その喜びが教職員の喜びにつながる好循環をつくる。学習・運動・遊びなどそれぞれに活躍の場と居場所があり、有能感や自己肯定感が高まる。そのことで、専門性を高め、実践で示す、喜びいっぱいの教職員となる。
- ・わかる授業づくりのために校内研修の充実や職場内でのコミュニケーションの充実を図る（磨き合いを大切に）。わかる授業づくりの道筋が広がる。
- ・授業のことや子どものことについて、磨き合うことは、分かる授業づくりや児童理解において効率化を図ることができる。
- ・効率化と分かる授業づくりとは相いれないという考えを捨てる。
- ・学校行事の見直しと精選を図る。運動会は、半日にしたほうが、子どもの負担が少なく教育効果も高い、家庭や地域の評価も高いなどがあげられたので、引き続き半日で取り組む。他の学校行事も同様に見直していく。地域行事も精選が進んでいるので、今後も働きかけていく。
- ・効率化を図ることで、退庁時間を早くする。具体的には、7:00以降の登庁、18:00までの退庁をめざす。
- ・週1回の定時退庁日は守るよう心がける。今年度中に、週2回の定時退庁日を設定することをめざす。
- ・思い切って「これはしない」と削減することも大切。自分の中で慣例を作らず、時間内で、できる仕事をする。
- ・働き方改革には、先生方の意見と考える必要がある。ボトムアップの体制づくりをします。

節度をもち、「今日も楽しかった。明日も楽しみ」と思える職場づくりをめざす。

コミュニケーションをとって、お互いに深い信頼関係を築き、協働する職場をめざす。